

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和7年度 第1四半期・令和7年4月～令和7年6月)

◆製造業を中心とした売上高の急減と先行きへの不安

全体で売上が悪化、特に製造業で深刻な落ち込み。先行きも「減少」予測が多く、慎重な見通しが続く。

◆採算性・資金繰り・人手不足の三重苦が深刻化

コスト高により採算性が悪化。資金繰りも厳しく、人手不足が経営の足かせとなっている。

◆業種ごとの課題に即した支援が急務に

業種ごとに課題が異なり、的確な支援(価格転嫁・人材確保・販路開拓等)が必要とされている。

- ・売上高の対前年同期比について、全産業の売上高DIは-12.9ポイントと、前回調査(+3.1ポイント)から16.0ポイント悪化した。
- ・業種別では、製造業(-29.2ポイント)・卸売業(-20.0)で大幅な落ち込みが見られ、特に伝統産業(銅器・漆器)の卸売業(-80.0ポイント)では深刻な需要減退が示唆されている。
- ・来季の売上高の見通し(対前年同期比)では、「減少」と見込む企業が28.8%と前年(29.7%)を下回ったが、「増加」と見込む企業の20.9%を上回っており、慎重な見通しが多く、企業の先行き不安が色濃く反映された結果となった。
- ・採算性においても全産業の採算性DIは-22.5ポイントと前回DIから1.7ポイント悪化。業種別にみると卸売業・サービス業で一定の回復が見られるものの建設業(-5.9ポイント)、製造業(-31.3ポイント)、小売業(-14.3ポイント)と落ち込んだ。原材料価格やエネルギーコストの上昇が利益を圧迫している可能性が高い。
- ・資金繰りのDIは-3.7ポイントと悪化傾向が継続している。価格転嫁の遅れが重荷となっているほか、金融機関からの借入等の条件変更や運転資金の確保への不安感が背景にあると思われる。
- ・今期の従業員水準に関して、全業種のDIは-16.8ポイントであり、引き続き従業員不足の状況が続く。特に建設業(-70.6ポイント)、小売業(-23.1ポイント)では深刻であり、人手不足が業務運営や売り上げ回復の阻害要因となっている。
- ・直面している経営上の問題では、建設業や製造業では「材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「原材料価格の上昇」といったコスト面での問題が上位に挙げられた。一方、小売業やサービス業では「消費者ニーズの変化への対応」が上位に挙げられており、コスト上昇に対応した付加価値の創出が喫緊の経営課題となっている。
- ・コスト高や人手不足に苦しむ企業の実情を踏まえ、商工会議所としては、価格転嫁や付加価値創出に向けた支援、資金繰り・採算性改善の伴走支援、人材確保対策の強化など、業種別課題に即した経営支援策の強化を実施していきます。

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和7年度 第1四半期・令和7年4月～令和7年6月)

調査月 令和7年4月～令和7年6月 (基準日6月1日)

対象 高岡市内事業所 330社

回答数 140社 (回収率 42.4%)

回答業種内訳及び構成比

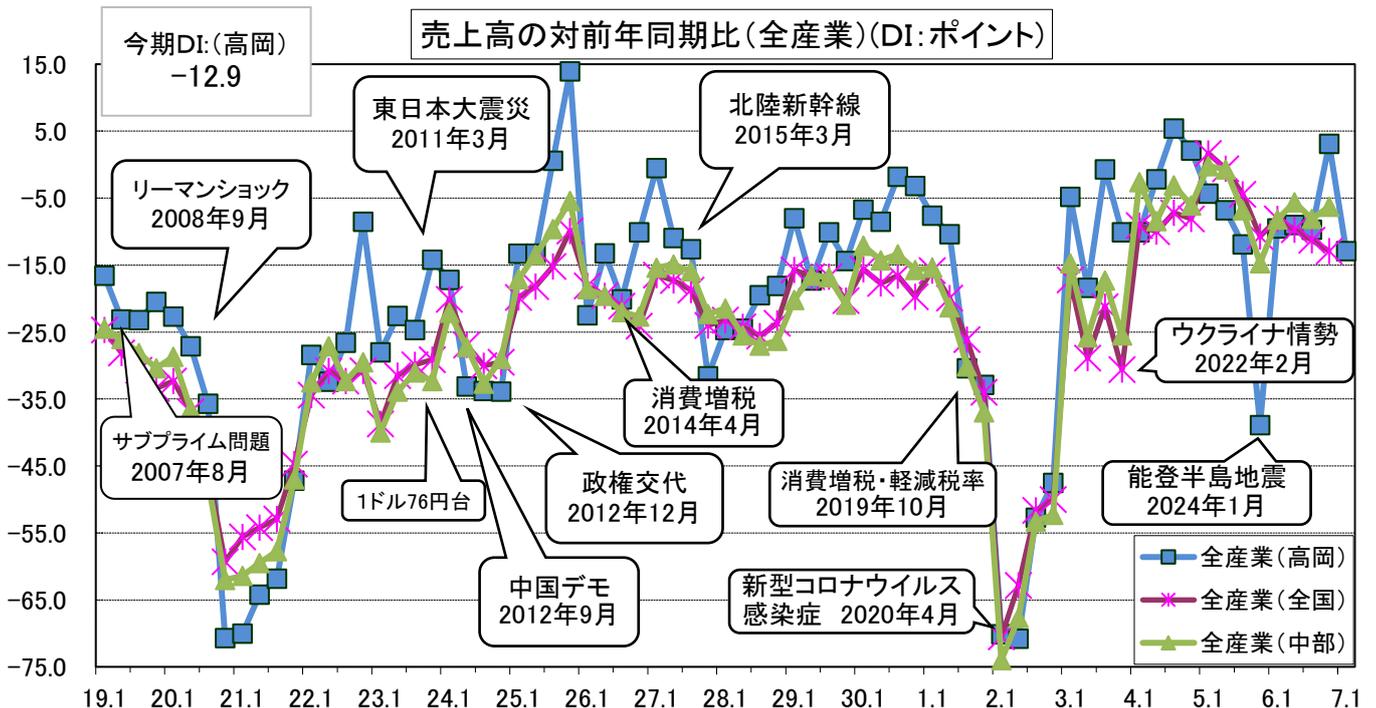
	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	17社	65社	25社	14社	19社	140社
%	12.1%	46.4%	17.9%	10.0%	13.6%	100.0%

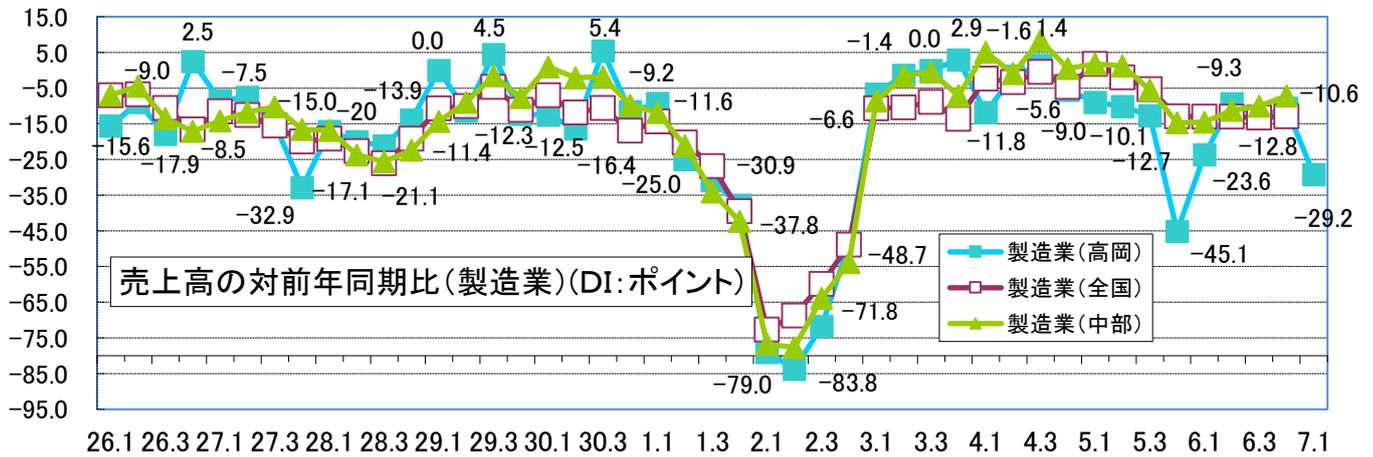
■1. 売上高の対前年同期比

(%) (ポイント)

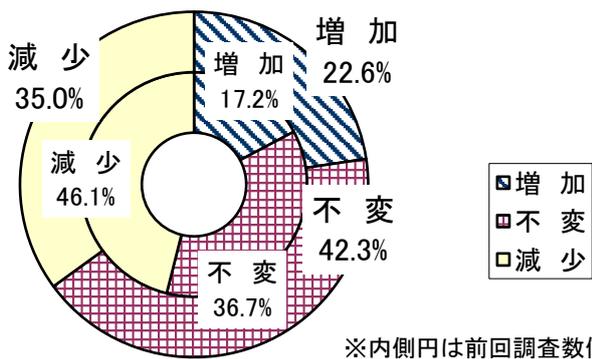
※全国、中部DIは前回調査分

	増加	不変	減少	DI	前回DI	変化	全国DI	
業	建設業	17.6	70.6	11.8	5.9	18.2	-12.3	-12.0
	総合・土木	20.0	60.0	20.0	0.0	12.5	-12.5	-
	建築・職別工事	14.3	85.7	0.0	14.3	25.0	-10.7	-
	製造業	23.1	24.6	52.3	-29.2	-10.6	-18.6	-12.9
	銅器・漆器	36.4	27.3	36.4	0.0	-28.6	28.6	-
	アルミ・機械・化学・電気	19.4	25.0	55.6	-36.1	2.7	-38.8	-
種	食品・繊維・紙・他	12.5	25.0	62.5	-50.0	-35.7	-14.3	-
	卸売業	24.0	32.0	44.0	-20.0	4.5	-24.5	-5.8
	銅器・漆器	0.0	20.0	80.0	-80.0	-25.0	-55.0	-
	その他	26.3	36.8	36.8	-10.5	5.9	-16.4	-
	小売業	35.7	35.7	28.6	7.1	50.0	-42.9	-21.8
	食品・衣料・雑貨	28.6	28.6	42.9	-14.3	25.0	-39.3	-
電化製品・文化用品・他	42.9	42.9	14.3	28.6	62.5	-33.9	-	
サービス業	36.8	47.4	15.8	21.1	11.8	9.3	-8.0	
全産業	25.7	35.7	38.6	-12.9	3.1	-16.0	-12.9	

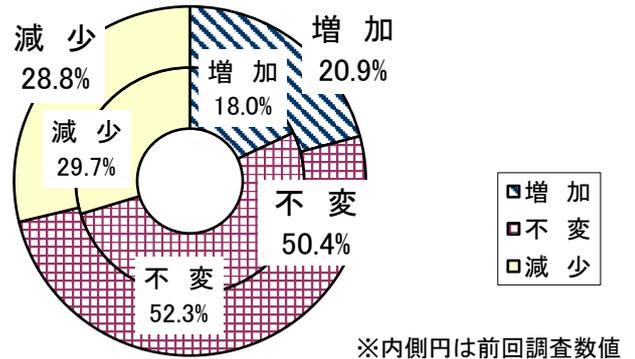




■ 2-1. 売上高の対前期比



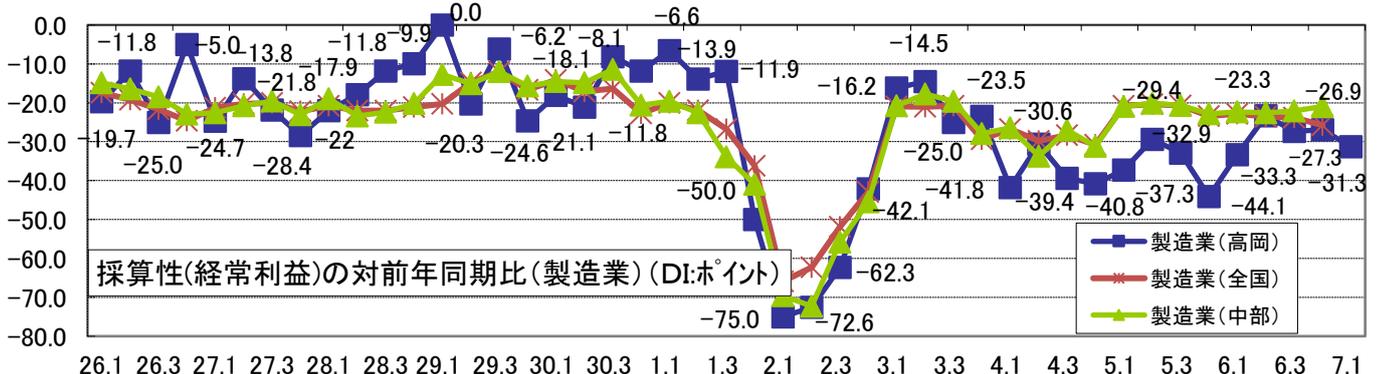
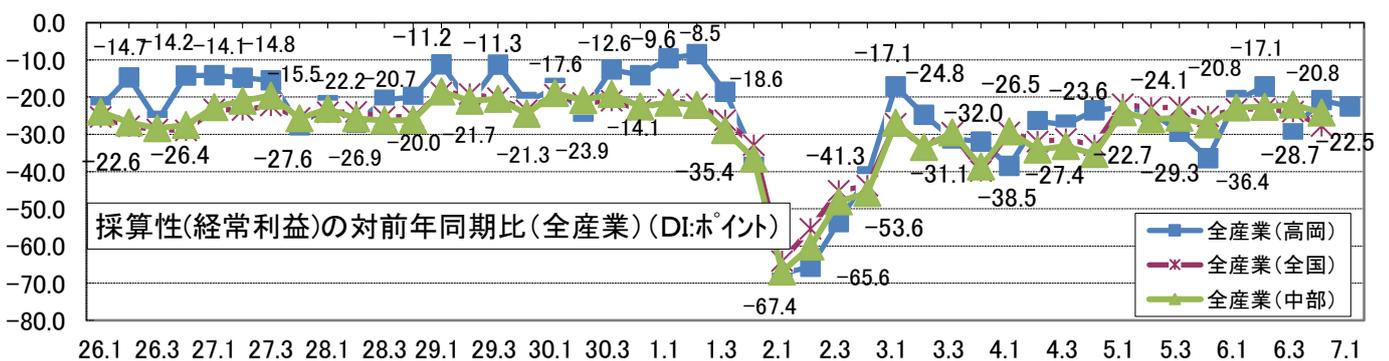
■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)



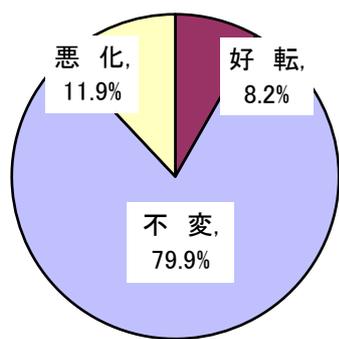
■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

※全国DIは前回調査分

業種		好転	不変	悪化	DI	前回DI	変化	全国DI
		建設業	17.6	58.8	23.5	-5.9	0.0	-5.9
製造業	17.2	34.4	48.4	-31.3	-26.9	-4.4	-25.8	
卸売業	16.0	48.0	36.0	-20.0	-22.7	2.7	-18.6	
小売業	21.4	42.9	35.7	-14.3	0.0	-14.3	-35.4	
サービス業	11.1	61.1	27.8	-16.7	-23.5	6.8	-27.0	
全産業	16.7	44.2	39.1	-22.5	-20.8	-1.7	-27.8	



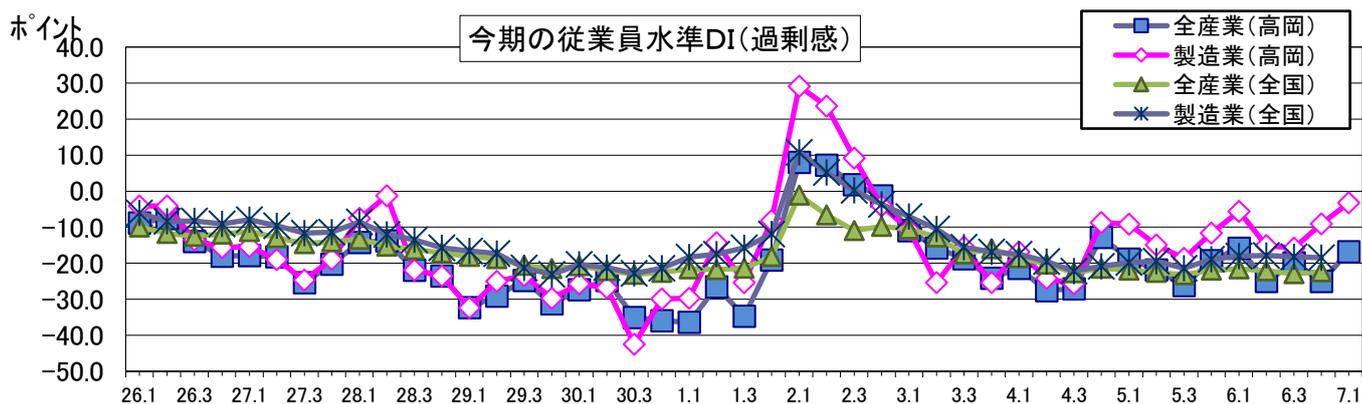
■ 4. 資金繰り(前年同期比)



資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
7.1	8.2%	11.9%	-3.7
6.4	4.0%	17.6%	-13.6
6.3	6.4%	14.2%	-7.8
6.2	2.9%	11.6%	-8.7
6.1	4.9%	11.8%	-6.9
5.4	1.4%	19.1%	-17.7
5.3	6.1%	15.6%	-9.5
5.2	5.0%	17.0%	-12.1
5.1	5.8%	13.9%	-8.0

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

(ポイント)

	R5.2	R5.3	R5.4	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4	R7.1
建設業	-53.8	-64.3	-54.5	-50.0	-64.3	-70.0	-75.0	-70.6
製造業	-14.9	-18.6	-11.6	-5.6	-15.1	-15.8	-9.1	-3.2
卸売業	-11.5	-11.1	-8.0	-8.7	-22.7	-13.0	-27.3	-8.0
小売業	-21.4	-33.3	-31.3	-14.3	-23.1	0.0	-36.4	-23.1
サービス業	-36.4	-40.0	-31.6	-31.8	-38.9	-31.6	-41.2	-21.1
全産業	-21.8	-26.2	-19.3	-15.8	-25.0	-19.9	-25.0	-16.8

※数字が小さいほど不足感が強い

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

複数回答

建設業	①材料価格の上昇	22.0%
	②従業員の確保難	20.0%
	③人件費の増加	12.0%
製造業	①人件費の増加	17.7%
	②原材料価格の上昇	17.1%
	③従業員の確保難	11.4%
卸売業	①需要の停滞	16.9%
	②人件費の増加	15.4%
	②人件費以外の経費の増加	15.4%
小売業	①需要の停滞	17.5%
	②消費者ニーズの変化への対応	15.0%
	②販売単価の低下・上昇難	15.0%
サービス業	①利用者ニーズの変化への対応	17.3%
	①材料等仕入単価の上昇	17.3%
	③人件費の増加	15.4%